

(1)基本目標及びそれに基づく各プロジェクト

総合計画P14~15参考

基本目標1	こどもの笑顔をつくるまち
プロジェクト1	のびのびと楽しく成長できる環境をつくり、これからの中を生き抜く力を身につけ、チャレンジできる教育環境づくり
プロジェクト2	安心して子どもを産み育てることができるよう家庭・地域における子育て支援の環境づくり
プロジェクト3	多様な価値観・考え方を尊重し、家庭や子育てに対し希望を持つことができるまちづくり
基本目標2	住みよく安心できるまち
プロジェクト1	保健・医療・福祉に係る環境・体制の充実をはじめとする暮らしの基盤づくりなどの共生社会の実現
プロジェクト2	社会情勢やライフスタイルの変化に柔軟に対応し、豊かな自然環境と都市環境が調和した快適でコンパクトな都市基盤の整備や住民サービスの最適化
プロジェクト3	自然災害や犯罪・事故等様々なリスクへの対応強化による住みよく安心できるまちづくり
基本目標3	活力ある魅力的なまち
プロジェクト1	多様な地域資源や本市の強みを市内外の人や企業と共有し、観光振興や人・企業の定着に向けた環境づくり
プロジェクト2	農業を中心とする第1次産業の持続的発展により、生活の基礎となる「食」を支え、農林水産物を通じた市の魅力度向上
プロジェクト3	地域経済をけん引する地域産業の労働生産性を高めて振興につなげる活気あるまちづくり
基本目標4	多様な人々の流れをつくるまち
プロジェクト1	地域の個性を際立たせ、コミュニティを超えた交流を強化し、地域内交流人口創出と市民の一体感の醸成
プロジェクト2	学校・企業・団体等と連携し、地域を知って親しむ機会の創出など、市外転出の若者などにも、関心を持ってつながり続けてもらえる環境づくり
プロジェクト3	多様な地域資源を有効活用し、市民や通勤・通学者など、地域に多様な形で関わる人々を増やし、つながり、人の流れをつくるまちづくり

(2)作成時の注意点

- ・総合計画の評価では、基本目標に紐づくプロジェクトを評価する。
- 複数のプロジェクトが該当する部署は、各プロジェクトでそれぞれ分けて評価する。
- 例:3つのプロジェクトが該当する場合、計3つ作成することになる。
- (旧計画までは事業ベースで評価をしていたが、各部署の個別計画の評価と重複する部分があったことと、計画の最終目的である「市民のウェルフェア(幸福度)」への貢献が見えにくかったため、今後はその部分は各部署の個別計画等評価内で実施する。総合計画ではあくまで計画記載のプロジェクトの実施状況を確認し、評価する。)
- ・各部署でプロジェクト達成に影響する成果、課題、次年度のアクションを把握し、PDCAを回す
- ・プロジェクトの達成レベルは審議会で評価する。

(3)現状評価の判定基準 ※宇城市総合政策審議会で判定

- ・達成レベル:
 - S:適切な対策や事業が施され、プロジェクトが達成されている(達成可能である)。
 - A:プロジェクト達成のために、課題等はあるが整理されており、対策が講じられている。
 - B:プロジェクト達成に向けて、改善や工夫が必要と思われる。
 - C:外的要因・財政状況の変化等により、抜本的見直しが必要。

基本目標		プロジェクト
2	住みよく安心できるまち	プロジェクト2 社会情勢やライフスタイルの変化に柔軟に対応し、豊かな自然環境と都市環境が調和した快適でコンパクトな都市基盤の整備や住民サービスの最適化

前回評価時の重点アクション

これは2回目の評価時から記載

プロジェクト達成に影響する各年度の重要な成果	
R7	
R8	
R9	
R10	
R11	
R12	
R13	
R14	

プロジェクト進捗による市民の幸福度への貢献の評価(市民の幸福度への主な影響を要約で記載)

プロジェクト達成のための課題

部署名 _____
記載担当者名 _____

関連する個別計画名

**各部会からの意見
(各個別計画の審議会や委員会等からの意見があった場合記載)**

次年度の重点アクション(3~5項目程度箇条書き)

審議会 現状評価	評価結果(指摘等ある場合記載)
_____	_____

部署名 市長政策部企画課企画統計係
 記載担当者名 ●●

基本目標		プロジェクト
2 住みよく安心できるまち		プロジェクト2 社会情勢やライフスタイルの変化に柔軟に対応し、豊かな自然環境と都市環境が調和した快適でコンパクトな都市基盤の整備や住民サービスの最適化

前回評価時の重点アクション
これは2回目の評価時から記載

プロジェクト達成に影響する各年度の重要な成果	
R7	R7年度はまだ年度途中で現時点では記載できない。
R8	
R9	
R10	
R11	
R12	
R13	
R14	

プロジェクト進捗による市民の幸福度への貢献の評価(市民の幸福度への主な影響を要約で記載)
R7年度はまだ年度途中で現時点では記載できない。

プロジェクト達成のための課題
計画策定時の市民アンケートでは、まちづくりを進めていく課題として、公共交通の整備や免許返納後の交通手段に対する不安などが挙げられた。人口減少が進行するなか、公共交通など都市基盤のあり方等を検討し、持続可能な都市の形成を行う必要がある。併せて、人口減少下における各地域の人口規模や人口構造に応じた市としてのまちづくりのあり方を検討していく必要がある。

関連する個別計画名
宇城市地方創生総合戦略(・宇城市人口ビジョン)
宇城市過疎地域持続的発展計画
宇城市地域公共交通計画

各部会からの意見 (各個別計画の審議会や委員会等からの意見があった場合記載)
R7年度はまだ年度途中で部会評価も未実施。

次年度の重点アクション(3~5項目程度箇条書き)
R7年度の状況次第だが、公共空白地に対する対策や免許返納後の交通手段等を検討する。

審議会 現状評価	評価結果(指摘等ある場合記載)
B	

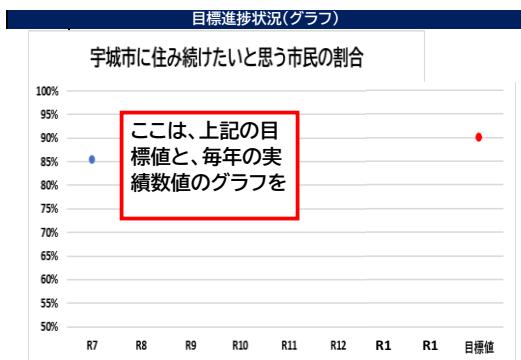
No	まちづくり指標名	基準値	基準年	方向性	根拠資料	実績値								目標進捗
						R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
1	宇城市に住み続けたいと思う市民の割合	87.2%	R5	↗	市企画課調べ (市民アンケート調査より)	85.5% 参考値								不良

前回評価時の今後の取組

これは2回目の評価時から記載

目標進捗率に影響した各部署の取組内容の分析
(進捗の要因等)

R7	
R8	
R9	
R10	
R11	
R12	
R13	
R14	



現状分析を踏まえた今後の取組

審議会現状評価	評価の詳細(理由等)

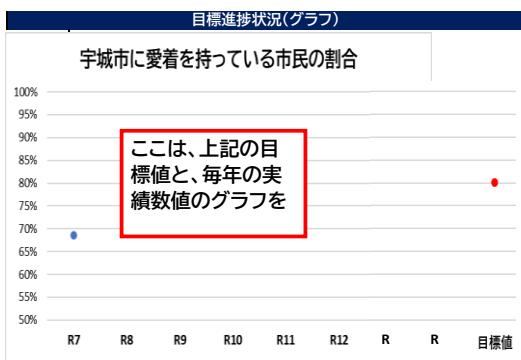
No	まちづくり指標名	基準値	基準年	方向性	根拠資料	実績値								目標進捗
						R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
1	宇城市に愛着を持っている市民の割合	72.0%	R5	↗	市企画課調べ (市民アンケート調査より)	68.6% 参考値								不良

前回評価時の今後の取組

これは2回目の評価時から記載

目標進捗率に影響した各部署の取組内容の分析
(進捗の要因等)

R7	
R8	
R9	
R10	
R11	
R12	
R13	
R14	



現状分析を踏まえた今後の取組

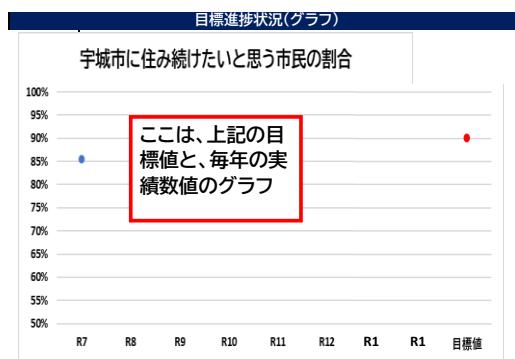
審議会現状評価	評価の詳細(理由等)

No	まちづくり指標名	基準値	基準年	方向性	根拠資料	実績値							目標進捗	
						R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
1	宇城市に住み続けたいと思う市民の割合	87.2%	R5	↗	市企画課調べ(市民アンケート調査より)	85.5% 参考値								不良

前回評価時の今後の取組
これは2回目の評価時から記載

目標進捗率に影響した各部署の取組内容の分析
(進捗の要因等)

R7	基準値よりR7実績が下がっている。 市民アンケート(R7仮測定参考)の住みにくさの理由の回答を見ると、「公共交通の利便性」「買い物」「働く環境整備」が上位で挙げられていた。 これらの施策の進捗が●●(評価実施前なので現時点では不明)であり、これが影響していると考えられる。
R8	
R9	
R10	
R11	
R12	
R13	
R14	



現状分析を踏まえた今後の取組

「公共交通の利便性」「買い物」「働く環境整備」のこれら3点の対策及び対策の実施予定スケジュールを検討する。

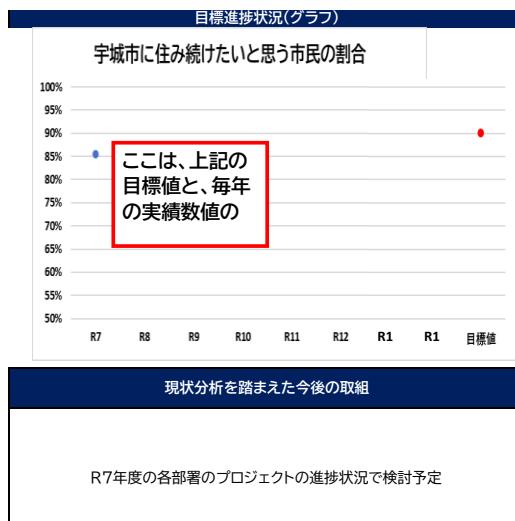
審議会 現状評価	評価の詳細(理由等)
B	

No	まちづくり指標名	基準値	基準年	方向性	根拠資料	実績値							目標進捗	
						R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
1	宇城市に愛着を持つている市民の割合	72.0%	R5	↗	市企画課調べ(市民アンケート調査より)	68.6% 参考値								不良

前回評価時の今後の取組
これは2回目の評価時から記載

目標進捗率に影響した各部署の取組内容の分析
(進捗の要因等)

R7	R7年度の各部署のプロジェクトの進捗状況で分析予定
R8	
R9	
R10	
R11	
R12	
R13	
R14	



現状分析を踏まえた今後の取組

R7年度の各部署のプロジェクトの進捗状況で検討予定

審議会 現状評価	評価の詳細(理由等)
B	